

レポート

(審議内容の一部を掲載しました)

総務福祉文教

75才以上のタクシー利用の助成事業の対象者拡大の考えは

A 昨年は、タクシー券24枚だったものを21年度は30枚とした。今後利用実態を見ながら、全体の予算の中で拡充できるもの等を検討し、利用しやすいものにしていきたい。

小諸市コミュニティバスや佐久市の生活バス路線の利用状況は

A 20年度の乗降者数は、佐久御代田線は2千436人、19年度は浅間病院までの路線がないときのもので、1千941人で約500人増加している。小諸すみれ号は、20年度が2千61人で、19年10月からの運行なので比較数値はない。

機構改革により保健福祉課をワンフロアーにしたことの検証は

A 基本的には、庁舎一本化が望ましいが、20年度当初は、ワンストップで事が完結しない等の問題もあったが、関係各課との協調体制の中で、転入転出の際の保険証交付、年金手続き等町民課住民係の窓口対応によりワンストップに近い状況に改善されている。高齢者の方へは、階段に不便を感じられる方には、職員が1階で対応するなどしている。福祉の拠点と考えると非常に良かった。

国保の高額療養費の大幅な伸びの主な原因は

A 高額療養費21年1月から現在まで1ヶ月で50万円以上の医療費がかかった方をリストアップし、分析すると血管に伴う病気、糖尿病からの人工透析、狭心症、脳梗塞から発生する認知症の方々に高額な医療費がかかっていることが分かった。生活習慣病は予防可能な病気なので、特定健診の受診に力を入れていきたい。

複合文化施設使用料収入が増加しているが、団体利用が伸びているのか個人入館が伸びているのか

A 東京方面の小学校の移動教室として博物館の団体利用が伸びている。ファミリーの利用も増えている。昨年と比べ5千人程度の増となっている。首都圏から子どもを持つ



委員会

町民建設経済

管外保育園利用者は何人か。子育て応援特別手当交付金の交付状況は

A 管外保育園利用者は、私は4月27日開始で7月31日に終了した。交付件数は3名。子育て応援特別手当の支

261件である。

緊急経済対策事業として工事発注しているが、落札率ほどの程度か、工事金額の根拠は何か

A 町内の8社ぐらいでは、工事金額の根拠となる設定とんど入札を行っているが、計積算単価は県統一で決ま大体90%以下ぐらいで設計積算額より1割程度低い金額で、工事を行っている。算し発注している。

『浅麓環境施設組合の財産処分について』土地ではなくお金で精算するので、高い金額で精算すべきでは

A 昭和58年に坪7千500円で購入し、町の持分は652万円程で、基金と合わせ約1千808万円になる。町としては、適正な価格で精算できるよう小諸市と協議し、12月議会で予算化したいと考えている。

野生鳥獣統合管理対策事業補助金は年々増加しているか。千m林道の緩衝帯の効果はどうか

A ツキノワグマ、イノシシ、ニホンジカが対象で、19年度比で増加している。補助金は捕獲頭数で補助され、一頭につき8千円である。捕獲頭数は平成20年、ニホンジカ47頭、イノシシ43頭、クマ9頭、合計99頭。捕獲地区が清万・軽井沢方面になってきているので、緩衝帯を避けて回ってきていると思われる。



軽井沢大橋の耐震補強工事（委員会視察）